

### 建設 アスベスト

# クボタは声を聞け

## 福岡判決受け連日行動

【本部・北川誠太郎記】11月11日の福岡高等裁判所による九州建設アスベスト訴訟（一俣・原告数54人、被害者28人）では一人親方を含む国の責任と建材メーカーの責任を認め、被害者に対する賠償金支払いを命じる判決を言い渡しました。

判決日以降も連日の厚労省前や最高裁前での集会を取り組み、被告企業との交渉を進め、被害者に対する賠償金支払いを命じる判決を言い渡す窓口の開設を拒んでいないため、11月15日に九州と首都圏の原告団と弁護団、東京土建、千葉土建、埼玉土建、神奈川県連と共に東京本社前で抗議宣伝行動を52人で取り組みました。同じ時間に関西の大阪本社へも抗議宣伝行動を取り組まれました。原告とともに「私たちの声を聞いてほしい」「クボタでかかっているCSR（企業の社会的責任）のとおり、問題解決のために交渉窓口の開設をして」などの要請を繰り返して行ないました。聞き耳を持たず交渉は一切しないとのことでした。



クボタ東京本社前でシュプレヒコールを繰り返す原告ら

私たち東京土建は原告団と弁護団とともに、引き続き被害者への真摯な謝罪と補償基金制度創設に向けての話し合いの場を求めていきます。

### 社前での横澤統一 本部幹事の発言



横澤さん

行動に参加した全国の被害者、原告、原告遺族、弁護団、支援組合のみなさんお疲れ様です。11月11日の福岡高裁での判決の評価は省略）アスベストの危険性を知らずながら利益追求を優先した建材メーカー大手のクボタの責任は重大であります。思い出せば2005年6月の尼ヶ崎の神崎工場でのクボタショックに對し、同年11月に幡掛社長は工場の内部だけでなく工場外一キロ以内の居住者及び通勤者もアスベスト被害の救済金を支払うことを表明しました。それから13年ク

## 前川氏の講演に共感 高齢者集会に1000人超

【本部・碓谷栄治記】11月20日、杉並公会堂で開催された第30回ゆたかな高齢者集会で、東京土建シニア友の会からは141人（全体では1000人超）の仲間が参加しました。基調報告に立った実行委員会事務局長の菅谷正見さんの「高齢社会は、人類が長年かけて得た成果であり、現代医学の勝利」という話が大変印象的でした。勝者であるはずの高齢者への実際の処遇との落差に参加者皆、愕然としていました。メインプログラムは、前川喜平さん（現代教育行政研究会）の講演。憲法条文を引きながら、個人の尊重や学問の自由、教育を受ける権利など縦横に話されました。子どもの貧困は単に経済的なことだけではない、生活環境や人間関係が大きく影響していること、生涯学習に向け、自ら学び、考える力を付けるのが学校の役割であること、そして、



講演を聴く参加者。憲法条文を引きながら、個人の尊重や学問の自由、教育を受ける権利など縦横に話されました。子どもの貧困は単に経済的なことだけではない、生活環境や人間関係が大きく影響していること、生涯学習に向け、自ら学び、考える力を付けるのが学校の役割であること、そして、

所代表の、「子どもの貧困、子ども食堂・学習支援、高齢者を含む地域社会が教育者を含む地域社会の役割」と参加者は共感していました。

### 苦しむ仲間のために 扉をこじ開けよう

ボタ製品であるアスベストを使い、何も知らないまま暴露命を奪われた私たちの仲間には面会すらしないのです。これだけの判決が積み重なり、も進行中の労働災害です。クボタで働かれていますか。大切な人を失うことをどう思いますか。兄弟を失う、子どもを失う、主人を失うのはどれだけでも悲しいでしょうか。床に伏し、

苦しむもがいて息絶えていくのです。まず原告と弁護団との協議の場を作り、原告と遺族に対し謝罪を行なってください。思いやりのあるリーダーになり社会的責任を果たしてアスベスト問題の解決に取り組むべきです。そしてアスベスト基金に手を貸してください。皆さん、すべてのアスベスト被害者が救済されるまで心をつなげて、このクボタのとびらを開けるまで頑張りましょう。

## 今月の主張

### 働き方改革が進む中で

政府は10月1日、2019年版「過労死等防止対策白書」を閣議決定しました。今回の「白書」では新たに重点業種として追加された、建設業とメディア業についての調査結果を報告しています。

総務省「労働力調査」では、月末1週間の就業時間が60時間以上の雇用者は2003年、2004年の12・2%をピークに減少しており、2018年は6・9%

で前年比0・8ポイント減少していますが、建設業への調査では2018年で10・2%が60時間以上でした。運輸業・郵便業の17・0%、教育・学習支援業の11・0%に次いで多く現場で作業する「技能労働者」では3・5%でした。

現場監督の労働時間が長くなる理由（複数回答）は「業務量が多い」がトップで64・1%、次いで、「工期の厳格化」「人手不足」「現場の混乱」がそれぞれ44・2%と続いています。「白書」では建設業における過労死等の防止のための対策の実施状況

## 平和の思い新たに 日本平和大会 in 沖縄

### 日本平和大会 in 沖縄

【本部・古館秀哉記】日本平和大会が11月8日〜9日に沖縄で開催され、東京土建本部からは中村隆幸副委員長と私の2人が参加しました。全体集会では玉城デニー知事より2月に行



登壇した中村隆幸副委員長（左）と仲間の東京の代表者

## 外交、内政悪化の一途 安倍首相ヤメロ

### 国会前行動

11月19日、国会議員会館前で月例の総がかり行動が行なわれ、「安倍首相ヤメロ」と声をあげる2600人の市民が集まりました。主催者から高田健共いました。

参加した狛江支部の野口松雄さんは「通院しています。後期高齢者の医療費自己負担が2割になったら生活は大変です。政治家はお金の使い方。税金ですから」と話していました。

なわれた県民投票により新基地建設反対の民意が示されたことなどが訴えられ、会場からは大きな拍手が起こりました。

2日目は動く分科会の南部戦跡コースに参加し、糸数アキラガマ（ガマとは自然洞窟で戦中は防空壕として利用された）を訪問。民間人は沖縄中部から上陸したアメリカ軍により南部に追い詰められガマに避難、今度は日本軍からガマから追い出され、両軍

同代表が「安倍首相の総理在職日数が明日で最長になるが、外交も内政もまずいことばかりで、近隣国との関係は最悪になり、貧富の差は拡大している。九条改憲で戦争をする国にする企みを依然としてすすめている。立憲野党と力を合わせ、改憲阻止、安倍政権を打倒しよう」などといさつしました。

国民民主、立憲民主、社民、共産、沖縄の風の国会議員が「桜を見る会」の私物化、自衛隊の中東派遣の問題について国会での追及も含めてスピーチしました。また、大学入試の民間英語試験導入に対して文科省前での抗議行動を呼び掛けた田中真美さん、自由学園の女子高校生などが活動や考えていることを力強く訴えました。

実際に沖縄を訪れ、現地の人たちの言葉を聞き平和への思いを新たにすることができました。